

近畿地方整備局
資料配布

配布日時	平成22年10月26日 14:00
------	----------------------

件名	<b>暮らしと交流を支える橋、次世代にも使えるように</b> ～「ふるさとの橋を守る」講演会・パネル展を開催～
----	--

概要	<p>高度経済成長期に集中的に橋梁建設が進められてきた橋梁も建設後40年～50年が経過し、老朽化に伴う損傷が各地で発生していることを背景に、近畿地方整備局では、和歌山県などと協力し、「ふるさとの橋を守る」をテーマに講演会とパネル展を開催します。</p> <p>道路橋をとりまく状況や橋梁の損傷とその対策事例を紹介するなど、橋梁の予防保全による長寿命化について参加者とともに考えます。</p> <p>また、講演会に先立ち、市町村長の参加による意見交換会（一般非公開）も開催します。</p> <p>&lt;講演会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■名称：「ふるさとの橋を守る」講演会</li> <li>■開催日時：平成22年11月2日（火）14時～17時10分</li> <li>■開催場所：和歌山県民文化会館3F 特設会議室 住所：和歌山市小松原通り一丁目1番地</li> <li>■参加費：無料</li> <li>■申込方法：下記ホームページにアクセスのうえ、所定の内容を記入し、11月1日12:00までに応募ください。 先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。 ホームページ：<a href="http://www.kkr.ml.it.go.jp/wakayama/">http://www.kkr.ml.it.go.jp/wakayama/</a></li> </ul> <p>&lt;パネル展&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■期間：平成22年10月28日（木）～11月26日（金）</li> <li>■場所：道の駅 紀の川万葉の里 住所：和歌山県伊都郡かつらぎ町窪（国道24号沿い）</li> </ul> <p>&lt;実施主体&gt;</p> <p>主催：近畿地方整備局 共催：和歌山県 後援：国土技術政策総合研究所・（独）土木研究所</p>
----	--

取り扱い	_____
------	-------

配布場所	和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、 和歌山県政放送記者クラブ 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ
------	--

問い合わせ先	国土交通省 和歌山河川国道事務所 副所長 杉若 武 計画課長 岩本 雅也 TEL 073-402-0278 FAX 073-424-2485
--------	---

## —「ふるさとの橋を守る」講演会—

■ **開催日時:**平成 22 年 11 月 2 日(火) 14:00～17:10

■ **開催場所:**和歌山県民文化会館 3F 特設会議室  
(住所:和歌山市小松原通り一丁目 1 番地)  
(TEL:073-436-1331)

■ **開催目的:**

日本の橋梁は、高度経済成長期に集中的に橋梁建設が進められてきましたが、建設後 40 年～50 年が経過し、老朽化に伴う損傷が各地で発生しています。日本よりも 30 年早く橋梁の高齢化が進んだアメリカでは 1970～1980 年代に落橋や通行止めが頻発しました。

架け替えると莫大な費用と期間がかかり、社会的にも大きな損失となるため、できるだけ長寿命化させる『予防保全』の普及などを目的に、和歌山県と協力した講演会とパネル展を開催します。

本格的な高齢化時代を迎えるにあたり、次世代にふるさとの橋を受け継げるよう、「ふるさとの橋を守る」をテーマに道路橋をとりまく状況や橋梁の損傷とその対策事例を紹介するなど、橋梁の予防保全による長寿命化について参加者とともに考えます。

■ **講演内容:**

1. 『橋梁の維持管理の現状と今後の課題』  
大阪市立大学名誉教授 北田 俊行
2. 『長寿命化時代の橋梁の予防保全対策』  
構造物メンテナンス研究センター(CAESAR)  
(独)土木研究所 上席研究員 星隈 順一
3. 『近畿地方における橋梁の長寿命化の取り組み』  
近畿地方整備局 道路保全企画官 橋本 拓己

■ **講演会参加の申込先**

下記ホームページにアクセスのうえ、所定の内容を記入し、11 月 1 日 12:00 までに応募ください。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

URL <http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/>

(講演会場位置図)



【アクセス】

JR 和歌山駅より

和歌山バス: 西口②、④番乗り場から「県庁前」、「和歌浦口」、「医大病院」行き等に乗車し、「県庁前」下車(約 15 分)、西に徒歩すぐ

徒歩: 約 30 分

南海和歌山市駅より

和歌山バス: ⑨、⑩番乗り場から「医大病院」、「マリーナシティ」行き等に乗車し、「県庁前」下車(約 10 分)、西に徒歩すぐ

徒歩: 約 20 分

## —「和歌山の橋を守る」パネル展—

- 展示日時:平成 22 年 10 月 28 日(木) 8:30~11 月 26 日(金) 12:00
- 展示場所:道の駅「紀の川万葉の里」  
所在名 : 和歌山県伊都郡かつらぎ町窪  
TEL : 0736-22-0055  
開館時間 : 8:30~17:00  
休館日 : 無休

### (パネル展会場位置図)



#### 【アクセス】

阪和自動車道と歌山 IC から 国道 24 号を橋本方面へ・・・50 分  
JR 和歌山線西笠田駅から車で・・・3 分

#### ■ 実施主体

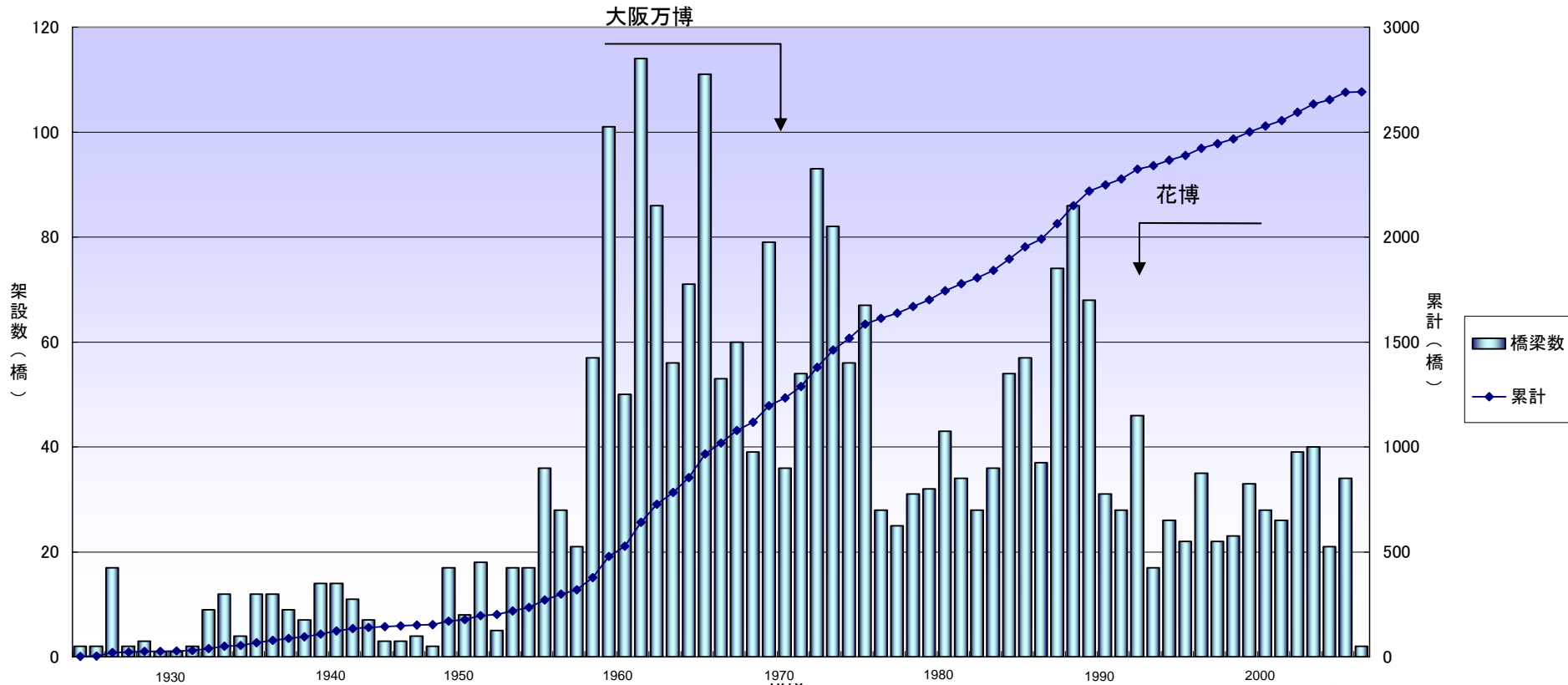
主催:近畿地方整備局

共催:和歌山県

後援:国土技術政策総合研究所・(独)土木研究所

近畿地方整備局が管理する道路橋(3,630橋)のうち、全体の約3割にあたる約1,100橋が、1950年代半ばから1970年代初め頃にかけての高度経済成長期に建設。

## 近畿地方整備局管内 橋梁架設数の推移

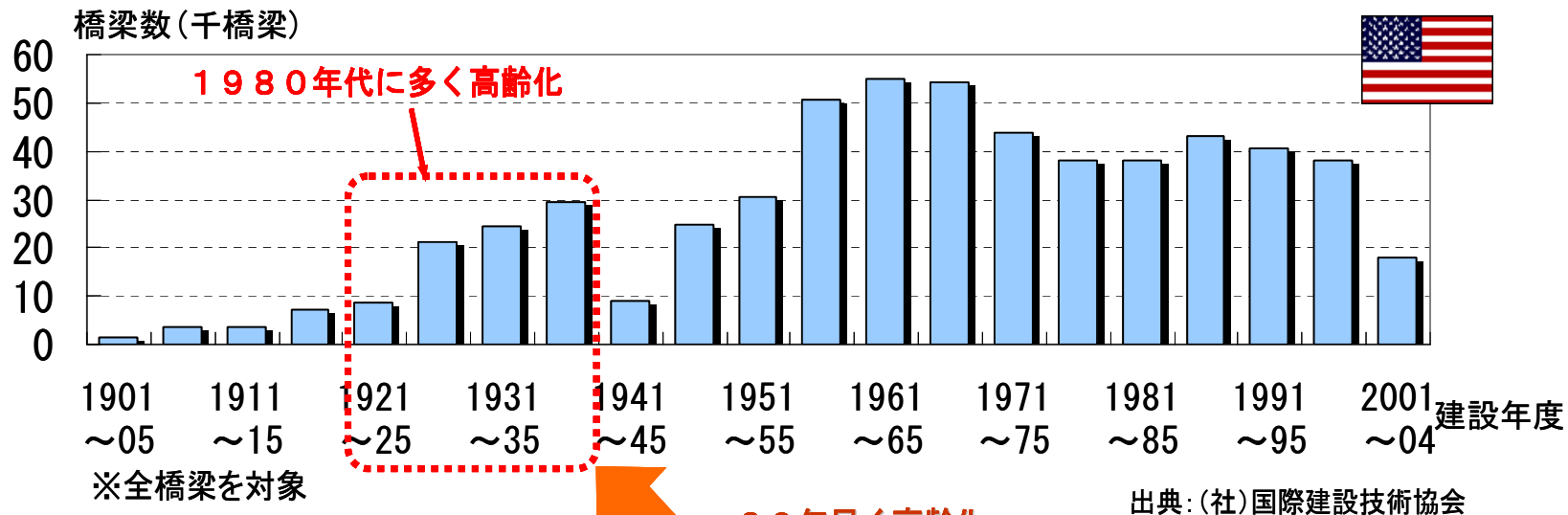


注1) 架設年不明橋梁が存在するため、橋梁数と累計が一致しない。

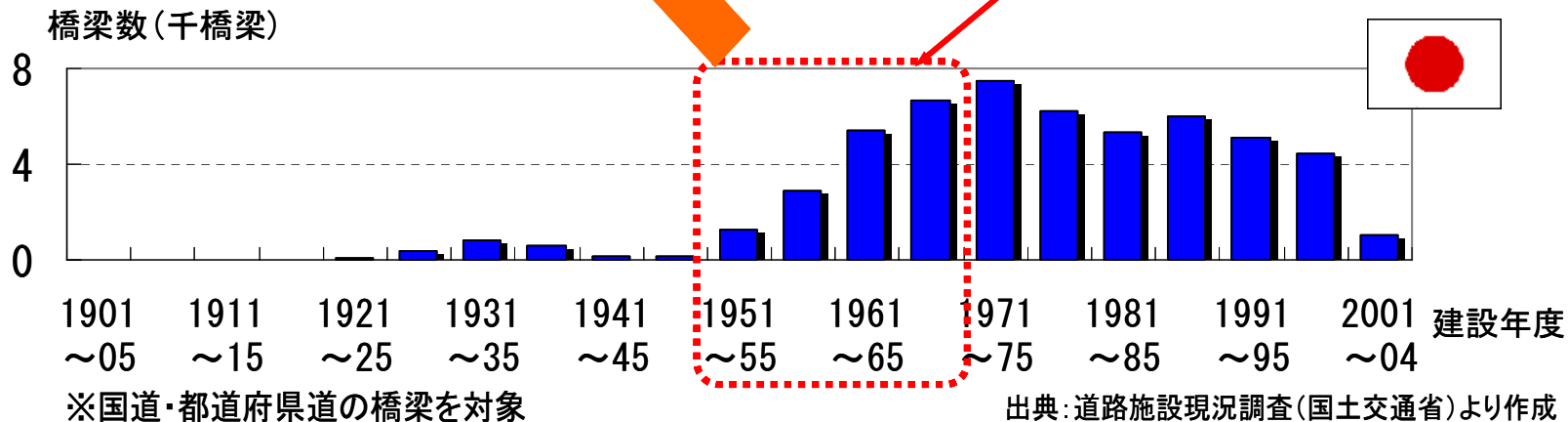
# 急速に進む日本の橋梁の高齢化

- ・米国では、日本よりも30年早い1980年代に多くの道路施設が高齢化。
- ・日本でも近い将来、高齢化が急速に進む。

【米国の橋梁の建設年】



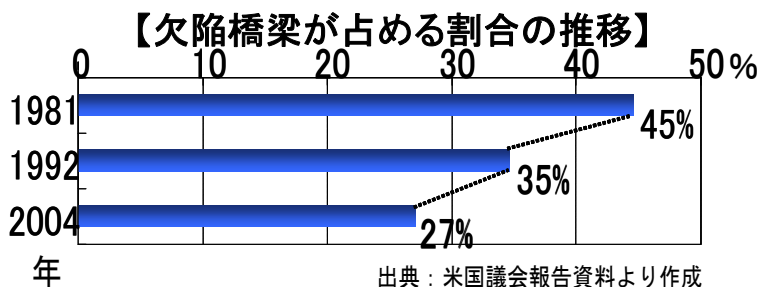
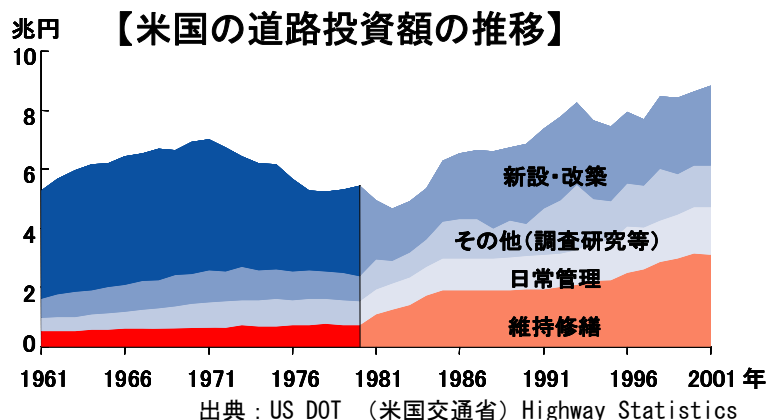
【日本の橋梁の建設年】



# 荒廃するアメリカの状況

- ・アメリカでは70～80年代で「荒廃するアメリカ」と言われ、落橋や橋の通行止めが頻発しその教訓から予防的安全対策に投資。
- ・維持補修に力を入れたことにより欠陥橋梁は減少したものの、2004年時点で未だ30%近い欠陥橋梁※が存在。

※欠陥橋梁：劣化のため車両通行規制がかかるなど構造的に欠陥のある橋梁や幅員不足など機能的に基準を満たさない橋梁



## 【シルバー橋の崩壊(1967年)】



## 【マイアナス橋の崩壊(1983年)】



出典：Fond du Lac  
Commonwealth Reporter  
(1967年12月)



出典：(社)国際建設技術協会

## 【損傷が進んだ舗装】



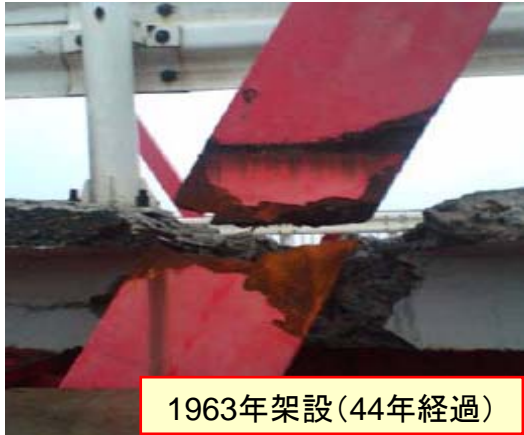
## 【有料橋の床版補修】



出典：「欧米主要国道路の光と影」(1984年 日本道路協会)



# 日本における道路橋の崩壊



1963年架設(44年経過)

木曾川大橋 2007年6月  
(トラス橋の斜材の破断)



1966年架設(41年経過)

本荘大橋 2007年8月  
(トラス橋の斜材の破断)



架設年:不明

香川県と徳島県の県境(管理者不明)  
2007年11月(橋梁の崩落)



1965年架設(24年経過)

長野県木祖村村道 新菅橋 1989年  
(腐食によるPC鋼線の破断)



1963年架設(27年経過)

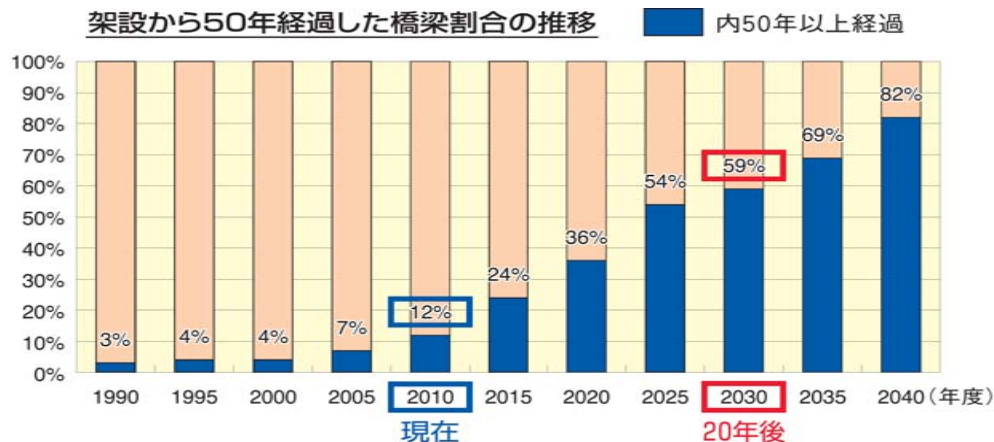
岐阜県福田町町道 島田橋 1990年  
(腐食によるPCケーブルの破断)



# 道路橋の保全に関する取り組み

近畿地方の直轄国道において、建設後50年を超える橋梁数の割合は、20年後には現在の1割から約6割まで急激に増加します。

これら橋梁の長寿命化を図りライフサイクルコストを軽減するため、これまでの「事後保全型」の維持管理から「予防保全型」の維持管理への転換を目指します。

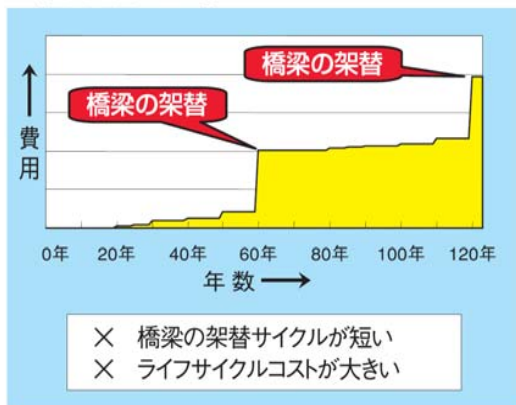


橋梁の損傷事例

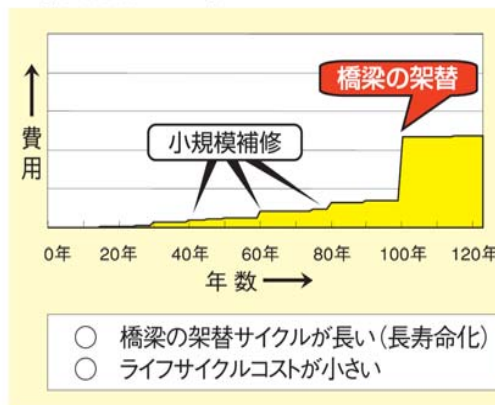


支柱の座屈(国道1号白川橋)

## 【事後保全型】

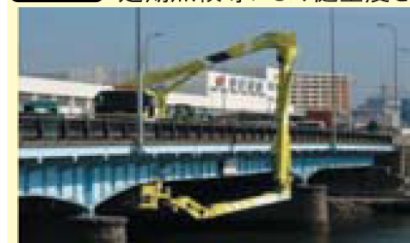


## 【予防保全型】



## 点検

道路施設を計画的に管理するため定期点検等により健全度を把握



## 小規模補修

炭素繊維接着等



損傷がより深刻化する前の軽微なうちに対策を実施